

# グローバル化時代の日本語教育と日本語教科書

寺尾 裕子

## はじめに

20世紀の最後の年に当たり、国を挙げて情報通信技術（ICT）の利用に取り組む姿勢が見えている。我々はICTのおかげで、以前よりはるかに速く、世界中から情報を集め、世界へ情報を発信出来るようになった。学校教育においては、情報環境、国際（異文化理解）というキーワードのもとに児童・生徒が新しい時代に生きていく力を身に付けられるよう新しい教育を実践しつつある。今や教育は目を世界に向け実践する時代となった。日本語教育もまた、新しい時代にふさわしい、教育を目指すべきであろう。日本語教育は一部の日本・日本文化に興味のある人々のために存在しているわけではない。そこで、本稿では日本国内外で日本語教育が実施されているグローバル化時代の日本語教育及び日本語教科書について論じる。

## 1. 日本語教育の環境

### 1.1 日本国内での日本語教育

日本語教育は日本語を母語としない者に対して当該言語を教えることである。日本国内で日本語教育が行われる場合と国外で行われる場合がある。日本国内で行われる場合現在では次のようなものが知られている。(1)大学・大学院等の高等教育機関での科目としての教育(2)留学生センターでの予備教育(3)日本語学校での教育(4)学校教育の中での日本語指導(5)中国帰国者（とその家族）に対する第二言語としての教育(6)地域の中での生活支援としての教育(7)在日外交官になる予定の者に対する教育(8)国外の日本語教師の再訓練としての教育(9)その他。それぞれに、学習目的、年齢、母語等が異なるため現実には一元化して論じることは難しいといえる。文化庁の調査によると、1999年11月1日現在で日本語教育機関・施設数が1,633、日本語教員数が23,048人、学習者数が93,331人である。これには先に述べた学校教育の中での日本語指導に関わる小・中・高の機関数は含まれていない。また、地域の中で生活支援としてボランティアによって行われているものも含まれていない。

### 1.2 日本国外における日本語教育

近い過去を振り返ると、戦争中の台湾、中国大陸、朝鮮半島での日本政府による現地の人々に対する「国語教育」、「日本語教育」が知られている。また、寺川（1964）によると、18世紀には旧ロシアの聖ペテルスブルグにあった日本語学校で日本語が教えられており、19世紀にはオランダのライデン大学で外国語としての日本語教育が始まったとのことである。その他、日本人移民の海外移住先でも日系移

民のために日本語が教えられていたことが知られている。

国際交流基金日本語国際センターの『海外の日本語教育の現状』（2000）によると、1998年現在、海外の115か国で日本語教育が行われているとのことである。詳しくは、機関数が10,930、教師数が27,611人、学習者数が2,102,103人である。海外の日本語学習者の約7割が初等・中等教育機関の学習者であり、約2割が高等教育機関での学習者、約1割がその他の機関の学習者である。初等・中等教育機関で日本語教育を行っているのは、58カ国の6,280機関で、学習者が多い国は韓国（約73万人）、オーストラリア（約30万人）、中国（約12万人）、米国（約7万人）、ニュージーランド（約4万人）とのことである。高等教育機関では、92カ国の2,221機関で日本語教育がなされ、学習者が多い国は韓国（約15万人）、中国（約10万人）、〈台湾〉（約8万人）、米国（約3万人）、タイ（約2万人）とのことである。日本語教師の約7割が非母語話者教師であり、初等・中等教育機関では、日本語の母語話者教師の割合が低く、自国での日本語教師の養成が課題になっているとのことである。

### 1.3 日本語教育の環境の違い

日本国内での日本語教育に携わる教師はおおむね日本語母語話者であることが推測される。ところが、国外においては上記の調査から分かるように、約7割の教師が日本語非母語話者である。日本国内における日本語母語話者による日本語教育では、学習者は教室外でも目標言語を聞いたり、話したりする機会が望める。教師も教科書を含む教材を手に入れやすいし、教科書に頼らなくても教授者自身を含め人的リソースが豊富であり、環境自体をリソースとしてさまざまなものを教材として授業に取り込むことが出来る。教師の力量にもよるが、情報機器を使い広く世界から教材を手に入れることも可能になっている。一方、国外での日本語非母語話者による日本語教育では、まず、教授者自身の日本語能力が問題となる。上記の調査では、非母語話者日本語教師の日本語能力についての直接の言及はなかったが、すべての者が高い言語知識、言語運用能力を持っていると見なすことは出来ないであろう。さらに、地域社会に日本人が住んでいるかどうかも一定ではなく、情報機器を使って広く世界から教材を手に入れる可能性も地域差があるといえる。従って、日本国内における場合より、教材として教科書の重要度は高いといえる。これらの点において、日本における英語教育と類似点があるといえる。日本では、英語教育に携わるのは日本語を母語とする者が大多数である。最近はALTの活躍があるが、中学校、高等学校レベルでは日本人教師が中心であることは否定できない。一般的に日本国内では日本語だけで生活でき、学習者が英語を使って生活をする場面は特殊な場合を除きないといって良いだろう。英語教師にとっても、教科書は必要なものであろう。

次に指摘したいことは、日本国内では高等教育機関での日本語教育の割合が高いのだが、海外においては、調査結果から分かるように、初等・中等教育機関で学ぶ学習者が多いということである。彼らのレベルにあった、教材が必要なことは明らかである。

## 2. グローバル化時代の日本語教育

グローバル化時代の日本語教育にとって大切なのは次の3点であると考える。

- (1) 教授者、学習者、言語自体を、世界に目を向けた視点で考慮すること。
- (2) 先端的情報通信機器を教育に取り入れることを考慮すること。
- (3) 異文化間コミュニケーションの視点を取り入れた教育を目指すべきこと。

### 2.1 世界に広がる日本語

日本語学習者の多様性については現在までしばしば論じられているように、彼らの母語は様々であり、年齢、学習目的も一定ではない。さらに、日本国内での学習者に加え、海外での学習者数が上記調査によると210万人を上回っており、実数はさらに多くなることが予想される。教授者についても、日本語非母語話者数は無視できないところまで来ている。実際、日本国内の高等教育機関でも日本語非母語話者が日本語教育関係のポストに採用され、日本語教育の一端を担っているのである。日本語自体、日本人同士のコミュニケーションに使用されるのはもちろん母語が異なる留学生が互いに日本語を使ってコミュニケーションを図ることは大学キャンパス内では普通のことになっている。さらに、海外において、日本語能力が高くない日本語教師の用いるものも日本語であるし、日本人観光客に店員が使用しているのも日本語である。日本語のヴァリエーションということでは多様なものを日本語として認めなくてはならなくなっているのが現代である。

日本語教育を論じるときに、日本語教育は日本語母語話者による、日本国内での学習意欲の高い学習者に対するものだけを考えてはいけないのである。

### 2.2 情報通信機器と日本語教育

どのような教材・教具を用いて日本語を教えるかは教授者にとっては大きな関心事の1つである。多様な学習者のニーズを満たす単一の教材は存在していない。日本語教育でも用いることの出来る視聴覚教材・教具については渡邊（1995）で論じた。しかしながら、当時と2000年現在ではかなり状況が変わったと言える。たとえば、渡邊（同上）では、コンピュータについて、CAIを可能にする機器という言葉はあるが、電子メール、インターネット利用の日本語教育については触れられていない。端末としてのコンピュータの役割が世界各地からの情報を集めるもの、世界へ向けて情報を発信するもの、あるまとまった教材を学習者に提供するもの、また、教授者と学習者がそれを介してやりとりをすもの等に変わってしまったのである。好むと好まざるとに関わらず、道具としてのコンピュータを教育の現場でも導入し、使いこなす必要が教授者・学習者双方に出てきたと言うことが出来る。以前なら、「機械に弱いから」と言って、コンピュータ等の機器類の使用を避けることも出来たが、現在ではそれでは教育の現場から降りなければならないであろう。

さらに、世界各地に存在する日本語学習者に対して、母語話者教師である我々が何が出来るかを考えたとき、その可能性の1つとして遠隔教育の導入がある。具体

的には、SCS (Space Collaboration System) を用いるもの、テレビ会議システムを用いるもの、インターネットを利用するものが考えられる。SCSは国内国立大学では使用可能であるが、設備の点、運用費用の点でどこでも使えるというものではない。海外と繋ぐ場合は相手の教育機関に設備が必要であるし、費用をどうするかという問題が存在する。また、遠隔授業すべてに関わる問題点であるが、時差を考慮して授業計画を立てなければならない。SCSを用いた日本国内大学間での日本語教育の実践例は寺尾(2000)を参照のこと。テレビ会議システムはSCSに比べると、適切なソフトウェアの使用により、費用の点、設備の点では実現しやすいと言える。2000年8月30日実施の第5回バーチャル・ユニバーシティ研究フォーラムにおいて富山大学から、海外の大学とのテレビ会議システムを用いた授業の実践例が報告がされている。ついでながら、このフォーラム自体がSCSを通じて行われたものである。インターネット利用のものは、リアルタイムの映像・音声情報の双方向での伝送は難しいが、チャット・電子掲示板を使つてのコミュニケーションは可能であり、あらかじめ教材を準備するには便利であるので、他のものとの併用を考えるとより効果的な遠隔授業が実現するであろう。筆者自身はまだ、インターネット利用の日本語教育の実践はないので紹介のみで留めておく。

### 2.3 異文化間コミュニケーションと日本語教育

従前の日本語教育においては学習者のコミュニケーション・コンピテンス(伝達能力)獲得のためにも日本語自体を身に付けることが第1とされ、音韻、発音、書記体系、統語規則、語彙、文型に関する教育に重点が置かれていた。Canale and Swain(1980)で言うところの「伝達能力」の下位分類の「文法能力」に重点があったと言える。「社会言語的能力」、「方略的能力」の扱いは不十分であった。コミュニケーション能力の育成の際にはネウストプニー(1982)で述べられている「言語使用の適切さのルール」、「非言語的伝達手段のルール」、「伝達方略」もまた、教授する必要があると筆者は主張したい。しかしながら、問題はそれらが当該言語が話されている言語社会・文化によって必ずしも同じではないという事実である。たとえば、鍋倉(1995:19)に、「英語社会には、過去のことにたいして、再び感謝の言葉を述べるといったような、習慣がない。」とあるが、日本語母語話者は、「先日はどうもありがとうございました。」等々の挨拶がされるべき状況において、相手が行ったことにまったく触れなければ、「その人物は失礼な奴だ」と解釈しがちなのではないか。

ここで、「文化」について少し述べる。文化自体の定義で言語教育界で知られているものは、'large C culture' と 'small c culture' である。前者は文明化の歴史としての文化であり、たとえば、社会一般として生み出される芸術、文学、科学などを指す。後者は、人類学的意味で定義されたもので、習慣、世界観、言語、日々の行動・生活様式等を指す。また、Robinson(1985)では、(1)行動主義者の定義(2)機能主義者の定義(3)認知的定義(4)象徴主義的定義の4つの異なる定義がなされている。

次に異文化間コミュニケーションとは何かについて鍋倉（同上）を引用する。「異文化間コミュニケーションとは（中略）文化背景を異にした人びとの間で起こる、相互作用のことである。」(p. 25)「異文化間コミュニケーションは（中略）国籍の違う人びと、異民族、異人種、異文化の背景を持つ者の間で起こるコミュニケーションである。」(p. 28) 定義として完全であると主張するのではなく、暫定的な理解として、論を進めたい。

日本語教育の目標、目的は学習者のニーズによって異なるのが普通であるが、日本語教育が学習者による目標言語を用いてのコミュニケーションを目指すとき、学習者にとっては日本文化は異文化に当たるので、異文化間コミュニケーションを目指しているのだと言うことが出来る。日本語教育を成功させるためには、異文化間コミュニケーションに必要な知識・情報を学習者に教授し、文化特有の「価値観」、「建前」、「規範とされる行動パターン」に対する理解を得させ、さらに日本人とのコミュニケーションの体験をさせることが必要である。異文化理解と異文化間コミュニケーションの視点に立った日本語教育が必要である。

### 3. 日本語教育のための日本語教科書

#### 3.1 日本語教科書の役割

第2章においてグローバル化時代の日本語教育にとって必要な3つの視点を述べた。教材としての日本語教科書はグローバル化時代の日本語教育を成功に導くためのツールでなければならないと考える。上記で述べたように、世界中で日本語非母語話者の教師が日本語教育に携わっている現在、情報通信機器の発達があっても海外でのその普及は日本国内と同じではないので、やはり、適切な教科書の価値は大きい。異文化理解・異文化間コミュニケーションに必要な知識・情報を学習者に教授する必要性を主張したが、日本語非母語話者教師にとっては、その知識・情報が教科書に載せられていることが必要であろう。母語話者教師にとっても、自らの文化は身近すぎて分析的に、客観的に把握することはたやすくないので教科書の記述は頼りになるものである。その知識・情報が何かということについては筆者自身確固たる結論を持っているわけではないが、上記に述べた、「価値観」、「建前」、「規範とされる行動パターン」はその代表である。たとえば、日本語話者にとっては、奥ゆかしさを表すことは肯定的に評価される行動パターンであるため、「何もありませんが。」とか「つまらないものですが。」という謙譲表現を用いることが期待されているということである。こういったことを体系的知識としてまとめることは複数の文化を比較してもなおむずかしいことであろう。教授者にとっての日本語教科書は、寺尾（2000）でも述べたように、日本語についての必要な情報、十分な量の適切な量の練習問題、宿題としての可能なエクセサイズが載っていることは勿論、グローバル化時代に必要な、異文化理解につながる情報を含んでいるべきである。

#### 3.2 日本語教科書調査による文化的項目の扱い

言語教育において教材にどのような文化的項目を盛り込むかについては、

Brooks (1964), Chastain (1976) が知られている。現存する教科書分析も、阿部 (1995, 1996), 澤田 (1999) 等があり、さまざまな文化的項目についての抽出がなされている。阿部 (1996) によると、中級用の読み教材としての教科書では、歌舞伎、生け花のような、いわゆる 'large C culture' に関わる項目も掲載されているし、価値観を表す「従順」について話題にされているものもあることが分かる。

本稿では、海外で用いることも想定してある初級用教科書で、阿部 (1995), 澤田 (同上) によって調査されなかったものを対象に、衣・食・住等に分類し、文化的項目の扱いについて調査した。対象となった教科書は以下の通りである。(1)『みんなの日本語初級 I 本冊』(1998, 1999) スリーエーネットワーク (2)『みんなの日本語初級 II 本冊』(1998, 2000) スリーエーネットワーク (3)『新文化初級日本語 I』(2000) 文化外国語学校 (4)『新文化初級日本語 II』(2000) 文化外国語日本語学校 (5)『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説英語版』(1998, 1999) スリーエーネットワーク (6)『みんなの日本語初級 II 翻訳・文法解説英語版』(1998, 1999) スリーエーネットワーク (7)『新文化初級日本語 I 教師用手引き書』(2000) 文化外国語学校編 (8)『新文化初級日本語 II 教師用手引き書』(2000) 文化外国語専門学校編

これ以後、本稿の中では便宜上、上記の順に『みんな I』, 『みんな II』, 『新文化 I』, 『新文化 II』, 『みんな I 解説』, 『みんな II 解説』, 『新文化 I 手引き』, 『新文化 II 手引き』と略した名称を用いて論じることとする。

まず、『みんな I』, 『みんな II』, 『みんな I 解説』, 『みんな II 解説』の調査結果について述べる。

<衣>『みんな I』では、単語レベルでの紹介もなされない。挿し絵から着ている物(スーツ)が分かる程度である。『みんな II』のコラムで、「着物」について知識を得ることが出来る。<食> 資料 A・資料 B から分かるような単語が用いられている。和食としては「てんぷら」, 「おすし」, 「てんぷら定食」, 「牛どん」, 「刺身」, 「親子丼ぶり」の名前を見ることが出来る。しかし、すべてが挿し絵、写真と一緒に紹介されているわけではない。<住> 挿し絵レベルの「マンションのドアの前」, 「応接セットのあるマンションの室内」, 「茶道を教わっている和室」が掲載されている。<生活・習慣> 資料 A・資料 B に見られるように、かなりの項目の扱いが見られた。文のレベルで、日本及び日本人なら当然行うであろうの行動について述べたりしている。日本人がどのような機会にどのような贈り物をしているのかを少しではあるが知ることが出来る。また、「ふるしき」, 「そろばん」は現代の日本人にとっても身近なものではないが、練習問題の中に見られた。「社員食堂」, 「忘年会」, 「社員旅行」, 「お見合いの会社」等、日本人がどのようにそれについて考えているかの説明はない。<地名・その他> 具体的には、資料 A・資料 B にあるとおりである。「東京」, 「京都」など県、大都市から、京都市にある「伏見」, 大阪の「梅田」, などローカルな地名まで出てきている。<芸術・スポーツ・言語・その他> いわゆる、表の文化に属する「歌舞伎」, 「生け花」, 「茶道」, 「剣道」という単語レベルでの掲載がある。「ドラえもん」, 「七人の侍」, 「浦島太郎」も出てくるが、教材化の根拠は異なるはずである。

次に、『新文化Ⅰ』、『新文化Ⅱ』、『新文化Ⅰ手引き』、『新文化Ⅱ手引き』の調査結果について述べる。

〈衣〉『新文化Ⅰ』において、「シャツ」、「ネクタイ」、「スカート」、「ブラウス」、「セーター」、「下着」の単語と挿し絵が載っている。『新文化Ⅱ』ではさらに「ワンピース」、「コート」、「スカーフ」、「半ズボン」等が挿し絵と共に出てくる。〈食〉具体的には資料C・資料Dにある通りである。和食として、「おさしみ」、「納豆」、「てんぷら」、「おすし」、「牛どん」、「焼き魚」が挙げられる。〈住〉日本人の住居空間が分かるものとしては、「台所の絵」及び、L15にある、間取り図であろう。

〈生活・習慣・その他〉L21を使って、訪問のマナーについて教えている。詳細は資料Dを見て欲しいが、特に、「次に会った時」には、必ず、「先日はどうもありがとうございました」と言うように指導していることを評価したい。また、L35での「まず謝る。理由を説明する。もう一度謝る。」という「謝り方」も日本語非母語話者には必要であろう。『新文化Ⅱ手引き』にあるように、どうしてそうなったかの理由を述べる前にとにかく謝るのが期待される行動だからである。〈地名・その他〉「東京」、「大阪」等全国区的なものがある一方、(東京都の中の)「中野」、「三鷹」等ローカルな地名が出てくる。〈芸術・スポーツ・言語・その他〉単語レベルの「すもう」「お花見」等の使用がある。

### 3.3 前節から分かること

2種類の計4冊の日本語教科書、及びそれぞれの解説書、手引き書の調査から次のことが言える。筆者が文化的項目であると認めたものが、確かに、教科書には含まれていた。それらは、'large C culture'に属するものも'small c culture'に属するものもあった。しかしながら、挿し絵があるのはまだ良いが、単に、文の中に説明もなく使用される場合が多く見いだされた。また、それらの項目の選択基準と扱いに異文化間コミュニケーションの視点が欠けていた。もちろん、初級用の教科書であるという制限はあるのだが、たとえば、「お見合い」とは何かという知識と「お見合い」を日本人がどう評価し、実生活の中でどのように関わっているかが教科書あるいは解説書・手引き等に載っている必要があると筆者は考えているのである。さらに、地名の扱いは教科書により異なり、日本語教育でのコンテンツとして共通理解として教授すべきものが定まっていないことを示していると主張できる。現実には、日本国内での限られた使用なら、その教科書を使用する機関の存在する地域のことについての情報が多い方が都合が良いわけであるから特定の地名が選ばれたと推測される。また、作成者自身の出身地や、勤務地の影響もあるだろう。今回の調査から言うと、『みんなⅠ・Ⅱ』では関西の地名が目につき、『新文化Ⅰ・Ⅱ』では、東京都内及び関東地方近辺の地名が目付いた。『新文化Ⅱ』のL21の「訪問でのマナー」で扱われている内容は文化を異にする教授者・学習者にとって価値のある情報である。また、『新文化手引きⅠ・Ⅱ』では、量的には少なかったが、目上の人には失礼になる表現についての言及があり、評価できる。しかし、全般的には日本国外の教授者・学習者を積極的に考慮して作られているとは言い難い。それ

それぞれの教科書に載せられている〈衣〉〈食〉〈住〉の項目から、実際の日本人の生活がどれくらい理解できるのであろうか。どのようなものを調理し、食べ、どのようなものを身に付け、どのような住居環境で生活しているかが教科書からは分かりづらいのである。ましてや、どのような価値観を持って生活しているかを教科書の中から読み取ろうとして見えてこない。

日本国内の高等教育機関では、文化的な側面は「日本語」の授業ではなく「日本事情」という科目の中で行われてきたことも事実ではあるが、担当者によって教えられる内容は必ずしも一定ではなかった。適切に教えられてきたと仮定しても、「日本語使用」と切り離しての授業では本来の日本語教育の目的に多くの貢献することを期待できない。日本語教科書には、異文化理解に関わる知識、情報は可能な範囲で載せていくことを選びたい。

### おわりに

現存する初級用日本語教科書は異文化間コミュニケーションの視点を入れて作成するべきであることを改めて、主張したい。日本語非母語話者教師による日本語教育のことを無視して、今日まで日本語教育に携わってきたことの反省からでもある。具体的にどのような項目がコミュニケーションの成功に関わるのかについての研究は今後の課題である。グローバル化時代の日本語教育は遠隔教育も取り入れ、さらに豊かなものになる可能性がある。外国の高等教育機関との協学を目指して21世紀を迎えたい。

### 参考文献

- 阿部香織 (1995) 「日本語教育用初級日本語テキストにおける『文化的側面』の扱いについての一考察」兵庫教育大学学校教育学部卒業論文
- \_\_\_\_\_ (1996) 「日本語教育における文化の取り扱いに関する研究」兵庫教育大学大学院学位論文
- Brooks. K (1964) *Language and language learning-* Harcourt, Brace & World, inc.
- ブルックス. N (1972, 1980) 『言語と言語学習』青木昭六他訳注 大修館書店
- Canale & Swain (1980) Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*.
- Chastain. K (1976) *Developing Second Language Skills-Theory to Practice-* Rand Macnally college Puboishing co.
- 石井敏他 (1987, 1997) 『異文化コミュニケーション』有斐閣
- K. Johnson & H. Johnson (1999) 『外国語教育学大辞典』岡秀夫訳 大修館書店
- 鍋倉健悦編 (1990, 1995) 『日本人の異文化コミュニケーション』北樹出版
- ネウストプニー (1982) 『外国人とのコミュニケーション』岩波書店
- Robinson G. L. N (1985) *Crosscultural Understanding*. Pergamon Institute of English.



- 佐野正之他 (1995, 1998) 『異文化理解のストラテジー』大修館書店
- 澤田田津子 (1999) 「日本語教科書の中の『日本』」『日本語の地平線』くろしお出版
- 寺川喜四郎 (1964) 『全ヨーロッパにおける日本語教育の歴史と現況〔歴史編〕』法政大学出版局
- 寺尾裕子 (2000) 「日本語教育教材論」『学校教育学研究』第12巻 兵庫教育大学学校教育研究センター
- \_\_\_\_\_ (2000) 「SCSを用いた大学教育における授業について」『実技教育研究』第14号 兵庫教育大学学校教育学部附属実技教育研究指導センター
- 徳重雅弘 (1997) 「インターネットを活用した異文化理解教育」『英語科授業学の今日的課題』江利川春樹他編 金星堂
- 渡邊裕子 (1995) 「日本語教育と視聴覚教育」『学校教育学研究』第7巻 兵庫教育大学学校教育研究センター
- 山田恒夫 (1998) 「マルチメディア／ネットワークを利用した外国教育高度化の研究」『視聴覚教育』9月号
- 吉田雅巳 (1998) 「メディア活用と遠隔学習」『視聴覚教育』8月号
- 結城皖曠 (1998) 「SCSの利用拡大とシステムの高度化に向けて」『視聴覚教育』7月号

## 資料

### (A) 『みんなの日本語初級 I 本冊』(1998, 1999)

〈職業・肩書き等〉社員, 主婦, アナウンサー, 小学生, 学生, 部長, 先生, エンジニア, 研究者(登場人文紹介のページ) 銀行員, 教師, 医者 (L15) 課長 (L18) 〈衣〉スーツを着た男女の絵 (L1) 女物か男物かよく分からないシャツ・ブラウスの絵 (L8) スーツの上着あるいはブレザーを着たタクシー運転手の絵 (L14) 上着, 下着 (L17) 〈食〉コーヒー (L2) ワイン (L3) ジュース, パン, 卵, くだもの, やさい, 紅茶, 魚, 牛乳, ビール, (L6) チョコレート (L7) イタリア料理, 日本料理, かんこくりょうり, (L9) チリソース (L10) リンゴ, みかん, サンドイッチ, アイスクリーム, カレーライス (L11) てんぷら, おすし, お酒, りんごジュース, 野菜ジュース (L12) てんぷら定食, 牛どん, ロシア料理, インドネシア料理 (L13) さとう (L14) ケーキ (L19) 刺身 (L20) 〈住〉パソコンがあるオフィスの絵 (L1) マンションのドアの前あたりの絵 (L2) 応接セットのあるマンションの室内の絵 (L8) レストランのテーブル席と, レジの絵 (L13) ダイニングキッチン, 和室, 押し入れ (L22) オフィスの中の絵 (L22) 〈生活・習慣〉(銀行は) 9時から3時までです。/(休みは) 土曜日と日曜日です。(L4) 日本人ははしでごはんを食べます。(L7) 銀行でのATM機の使い方 (L16) 日本の子どもは学校に入る前に, ひらがなを覚えなければなりませんか。いいえ, 覚えなくてもいいです。(L18) お茶を習う, パチンコをする, 紅葉を見に行く (L19) 日本は物価が高い。/着物はたかいです。(L20) 食事のまえに, お祈りをしますか。いいえ, しません, 「いただきます」と言います。/朝のラッシュをす

ごいす。／日本人は電車の中でよく寝ます。(L21) 日本人は休みの日に何をしますか。食事に出かける。／カラオケに行く。／ビデオを見る。／ディズニーランドなどへ行く。／パチンコをする。(L22) 友達が会社に入ったとき、日本人はどんな物をあげますか。そうですね。ネクタイやかばんなどですね。／(友達が結婚するとき、お金や電気製品をあげる。／子どもが生まれたとき、お金や服をあげる。／友達が新しいうちに引っ越ししたとき、絵や時計をあげる。)(L23) お土産 (L7) 〈地名・その他〉 奈良, 東京, 甲子園, 京都, 広島, 神戸, 伏見, 大阪城 (L5) 琵琶湖 (L L 8) 金閣寺, 長崎 (L 8) 東京ディズニーランド, 千葉県 (L 10) 北海道, 九州 (L12) 奈良公園 (L12) 梅田 (L14) 大阪の日本橋 (L15) 沖縄 (L16) お寺, 神社 (L16) 静岡県, 山梨県 (L19) 法隆寺 (L23) 〈交通・通信〉 新幹線 (L5) パソコン (L7) 〈芸術・スポーツ・その他〉 七人の侍 (L8) 小沢征爾 (L9) 歌舞伎, 野球 (L9) カラオケ (L9) 祇園祭. 生け花 (L12) 葛飾北斎 (L19) 聖徳太子 (L23)

(B)『みんなの日本語初級II本冊』(1998, 2000)

〈職業・肩書き等〉 営業部長, 隣人, 教師, 担任, (登場人物紹介のページ) 弁護士, 音楽家 (L42) 衣) 着物 (L39) {着物についての読みものコラム} 〈食〉 親子どんぶりの作り方 (L34) ソース, 鳥肉, たまねぎ, 調味料, しょうゆ, 酒, ごはん (L34) カップラーメン (L42) わしょく (L44) すき焼き (L45) ベトナム料理 (L50) 〈住〉 非常口の絵／自動販売機の絵 (L33) 茶道を教えてもらっている和室の絵 (L34) 布団にはもう慣れましたか。(L36) 〈生活・習慣〉 交通標識の絵 (L33) 電報 (L33) 燃えるごみは月・水・金の朝出して下さい。／燃えないごみは土曜日です。(L26) 友達の結婚式に何を来ていったらいいですか。そうですね。日本では男の人は黒か紺のスーツを着て, 白いネクタイをして行きます。(L34) 社員食堂 (L39) 忘年会, 運動会, 新年会, 社員旅行 (L40) ふろしき, そろばん (L42) お見合いの会社 (L43) 結婚式のスピーチ (L44) {コラム} 宅配便 (L46) 日本人の平均寿命 (L47) 塾 (L48) 〈地名・その他〉 関西空港 (L27) 四ツ谷駅, 三宮駅 (L29) 温泉 (L30) 福岡, 上野公園 (L31) 草津, 志賀高原, 白馬 (L35) 法隆寺 (L37) 箱根 (L41) 愛媛県 (L49) 江戸東京博物館 (L50) 自動販売機 (L29) 〈芸術・スポーツ・言語・その他〉 大阪弁 (L26) ドラえもん (L27) 星占い (L32) 「朱に交わればあかくなる」 (L35) 柔道 (L32) 盆踊り, 茶道 (L34) 剣道 (L36) ライト兄弟 (L36) 東照宮の眠り猫, 左甚五郎 (L37) 源氏物語 (L38) 北海道の雪祭り, 3億円事件 (L40) 浦島太郎 (L41) 大江健三郎, ノーベル文学賞 (L49) 拝啓, 敬具 (L50) 〈交通・通信〉 電子メールで (L26) インターネット (L30) 電子辞書, 携帯電話 (L36) 電子図書館 (L46)

(C)『新文化初級日本語I』

〈職業・肩書き〉 会社員, 大学生, 留学生, 学生 (pp.8-9) デザイナー, アナウンサー (L11) 〈衣〉 背広を着た男性／ワンピース姿の女性／割烹着をかけた女性の絵 (pp.10-11) シャツ, ネクタイ, スカート, ブラウス, セーター, 下着 (女物) (L5) 着物 (L11) 〈食〉 ハンバーガー, サンドイッチ, アイスクリーム, カ

レー、スパゲッティ、ラーメン、サラダ、うどん、そば、定食、コーヒー、紅茶、牛乳、コーラ、ジュース、水 (P.12) ビール、おさしみ、ケーキ、果物、食料品 (L5) 日本酒、納豆 (L6) てんぷら、おすし、さしみ、パイナップル、魚、肉 (L8) 牛丼、牛肉、たまねぎ、だし、調味料、しょうゆ、酒、さとう、油、ごはん、豚肉、鳥肉、たまご、たまねぎ、キャベツ、じゃがいも、にんじん、だいこん、きゅうり、ねぎ、パン、貝、いか、えび、こしょう、塩 (L12) いちご (L15) お菓子 (L18 <住> 犬猫病院の待合室の絵 (L3) 台所の絵 (L5) デパートの売り場の絵/デパートのお手洗いの中の洗面所の絵/ (L5) 郵便局の窓口の絵/デパートの売り場の絵 (L7) 和室、ダイニングキッチン (L15) <生活・習慣> 日本のお金 (p.15) 日本の祝日 (L1) 日本の郵便局は9時から5時までです。/ (休みは) 土曜日と日曜日です。 (L1) コインランドリーの使い方 (L9) 家族の呼び方 (L11) 日本人は何でごはんを食べますか。はしで食べます。 (L12) (東京は) 物価が高いし、うるさい。 (L13) 診察券・内用薬袋の絵 (L16) 体の名称/病気の名称/薬の種類 (L16) <地名・その他> 三越デパート (L5) 池袋 (L6) 小田急デパート (L7) 成田空港、新宿、渋谷 (L8) 熱海、下田、東京、東京駅、横浜、舞浜、東京ディズニーランド (L10) 伊東、波勝崎 (L14) 中野、東中野、北海道、九州、大阪、三鷹、池袋、富士山 (L15) 中国、四国、近畿、中部地方、関東・東北地方、群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川 (L17) <芸術・スポーツ・その他> スポーツ選手らの絵 (野球、バレーボール、バスケットボール、水泳、サッカー、乗馬、ジョギング) (L6) すもう (L15) お花見 (L17) <交通・通信> 東横線、山手線、京葉線、新幹線 (L10) 関東バス、西武バス (L15)

(D)『新文化初級日本語II』(2000)

<衣> 服装のことば (挿し絵と共に)、11号、Lサイズ、半ズボン (L19) ワンピース、コート、ポケット、ボタン (L23) スカーフ (L25) <食> タイ料理、しゃぶしゃぶ (L19) 焼き魚 (L22) ショートケーキ、日本料理 (L23) フランス料理 (L25) 韓国料理 (L28) 洋食 (L30) インスタントラーメン (L33) <生活・習慣> {訪問のマナー} あらかじめ電話で日時を約束します。電話をしないで訪問してはいけません。約束した時間より早く行ってはいけません。約束の時間に行きます。/ベルやチャイムを鳴らします。勝手にドアや戸を開けてはいけません。玄関の戸を閉めないで上がってはいけません。/靴を脱ぎます。上がってから靴をそろえます。そろえないで部屋に入ってはいけません。/手みやげは部屋に入ってから渡します。でも、花や生鮮食品は玄関で渡したほうがいいです。「どうぞお使いください。」とか、「お口に合わないかもしれませんが、召し上がってください。」などと言います。/嫌いな物は無理に食べなくてもいいです。/「今日は本当にありがとうございました。」とお礼を言います。お礼を言わないで帰ってはいけません。/必ず「先日はどうもありがとうございました。」とお礼を言います。 (L21) アルバイト (L22) お中元、お歳暮、お正月、バレンタインデー (L24) お中元に関するアンケート調査 {送った商品名と希望商品名のリスト} お年玉 (L25) 引っ越しの準備 (L27) {手続き等についての本文} 伝言板の記事 (L29) これ、私がつったケーキなんで

す。お口に合わないかもしれませんが、召し上がってください。(L30) 謝り方 (L35) サッカーはおもしろいけれど、体育系のクラブは大変ですよ。特に新入生は先輩にいろいろなことをさせられるから。(L36) <地名・その他> 原宿 (L23) 六本木, 新宿駅 (L28) 銀座, 上野, 浜松町, 羽田, 鹿児島空港 (L31) 浅草 (L32) 東京ドーム (L33) 霞が関 (L35) <芸術・スポーツ・言語・その他> 拜啓, 敬具 (L29) ハイキング (L34)

(てらお ゆうこ・兵庫教育大学)